

いんごだより



2026年8月号



本格的な暑さが続いていますね。最高気温が40℃を越す酷暑日が福山で観測される日も近づいているなど感じる日々です。夏だからこそできるあそびを楽しみながら、熱中症対策も徹底していきましょう。



★尊重されたい心

4歳に近づいてくると、もうからだは一人前です。からだ全体を使って、折り紙を折るのと同じ手順で、昼寝の布団をたたもうとします。自分の獲得している力を生活のなかで使い、生活を自分でこなせる実感をもとうとします。しかも、自分だけではなく、友だちもがんばっているのです。友だちの姿をみて、自分もがんばらなくてはと思います。友だちの姿が生活のモデルとして、位置づけされてきたのです。

そんな保育所での生活を、おかあさんも、おとうさんも知りません。だから、家では布団をたたむなんて、子どものしごとではなく、おとなが一気に片づけてしまうことかもしれません。そして、着替えが遅いのをいつも叱られてばかりいる自分かもしれません。「着せて」、「取って」などと、2歳のときよりも依存的なことばが増えるかもしれません。また、着脱などの細かいことでは援助が必要な段階なので、無理もないでしょう。

しかし、1歳児がひとつひとつの活動に共感を求めているようにこの時期の子どもたちも、家の外での自分のがんばりを認めてもらいたい願いをもち、そして自分で生活をこなせることを尊重してほしいのです。

ところが、外でがんばっているという実感をもつほど、家で尊重されていないことにイライラします。そして、外でがんばっている分、家では脱力してしまうのでしょうか。自分のがんばりとおとなの評価の断層が「甘え」や「ぐず」や「わがまま」と評価されるような行動になるのです。

できるなら、家を離れ、親から離れた関係のなかで、自分をはげましながら、自分の力で生活しようとしているわが子の姿を見つめてみたいものです。家庭で育てている子どもたちも、がんばって、がまんして、お留守番に挑戦したり、近所の家やお店にお使いに出かけられるようになるでしょう。しかし、いつもおとなのまなざしは必要です。おとながどこに

いるのかわからないと、がんばりと我慢は、たちどころに崩れてしまいます。日常の生活動作にも子どもの「自分で最後までしたい」願いを尊重しつつ、つまずいたときには、いつでも「いっしょにがんばってみようね」と支えてあげましょう。そして、やりきった努力を、まずおかあさん、おとうさんに認めてほしいのです。最後までがんばったことが認められる「良き終わり」こそ、やがて4歳の誕生日を迎えようとしている子どもたちの心の肥やしです。

参考文献：『発達の子・上』 白石正久著

次のりんご教室は…

りんご教室① … 9月1日(火) **9:50～11:30** 「クッキング(フルーチェ)」

りんご教室② … 9月15日(火) **9:50～11:30** 「クッキング(フルーチェ)」

の予定です。

★工事の影響で、時間が変更になっています

持ってくるもの : 水筒、シューズ、エプロン、三角巾、マスク、材料費100円

※保護者の方もエプロン、三角巾、マスクを持参してください。

参加される皆様へ ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園まで連絡をください。
- ・参加費はいりません。製作やクッキングの活動時には材料費として100円を集めさせていただきます。必要時には、『りんごだより』にて案内します。
- ・活動は、主に、草笛学園ゆうぎ室で行います。
- ・水分補給のため、お茶か水を持参してください。(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合はご相談ください。
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前には必ず爪を切ってきてください。